

■ 平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
1	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	建設部	都市再生室	まん福の活用について	まん福をお金をかけて取得していただいたのに、使い道がなかなか見つかっていない。なんとか文化財的なもので生かしていただきたい、使えないものか。市の所有となって、扱いについて伺いたい。	H27年12月から東北芸術工科大学に調査を行つもらつた。何に使う場合でも、現状のままでは耐震的に厳しいため、耐震化工事が必要である。秋田県能代市の旧料亭「金勇」の先行事例によると、建築改修工事費だけで最低6,000万はかかる。これは地域の木材メーカーから資材を無償供与いただいて材料費は一切かかっておらず、工事費のみである。電気設備・機械装置は別途費用がかかる。能代の場合は約4,000万円かかる。違法建築部分があるため、今後どのように使い方をする場合でも、この部分は撤去しなくてはならない。1,000万円以上のお金は撤去費としてかかると思われる。この2点の前提条件がクリアされた後で建築基準法上の用途変更が必要となるが、「集会所」として変更する場合、改修経費として2億円。「店舗」として使うことになるとすれば、内装の改修費・給水設備等の工事が別途必要となる。この場合は市での活用は難しいため、民間活用となる。駐車場スペースも十分ではないので必要となってくるだろう。  実際には無理だったということ。そこまでお金をかけてやるべきものどうか。でもなんとかしよう。まん福の取得・屋根を中心とした改修等で84,715千円お金をかけてそのまま放つておく訳にはいかないだろうという声もあり再度調査したが、調査しても実態は変わらなかつた。集会所を2億円かけて直すなら、新しく建てた方がいいだろう。民間の方が飲食店をする場合、市が8千万円もかけたものを無料で使っていただくのがいいのかどうか、さらに耐震化工事等で1億数千万円はかかる。建物・土地全部を市が取得したわけではないので、店をやるにしても駐車場は十分ではない。エセナの跡地を駐車場にとおつしやる一部の方もいたが、上町の端の大手なところを民間の方の店舗のための駐車場にすることはできない。最初の取得が間違いであつた。きちんと検討しないで購入してしまつた。どうしようもないことになるというのが実態。これを前提として、このまま朽ち果てていくのか、せめて建物だけは2,000万円かけて壊すのか考えていかないといけないのが今の実態。
2	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	生涯学習部	生涯学習課	集会所を建てた場合の支援について	まん福を壊して公民館を建てようとした場合、市の協力はあるのか。	公民館は、地域の方々にお金を出して作つていただく。これに対して、市が上限はあるが1/3の補助を出すという支援になる。
3	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	建設部 生涯学習部	都市再生室 生涯学習課	マルカンの活用について	マルカンに花巻中央振興センターを移転し、活用できないか。単なる集会所ではなく、生涯学習のターミナルとして子供・高校生が集まることができる場所をマルカンに作れないか。	家守さんが検討中であるが、まだ結論は出でない。子育て支援・青少年の健全育成の仕掛けは、家守さんの計画を考えたうえで、そのためのハード・運営のことを踏まえながら今後検討していく。  家守さんは5月中に結論を出せないであろう。テナントの数が足りればいいが、一部花巻市がテナントとして入らなければならぬ状況になる可能性もあると思う。中央振興センターとしての検討は並行的に行うが、利用の方法はあくまでも中央振興センターとしての機能・利用らしい。ハードがあれば生涯学習ができるというのは、順番が逆であろう。ほかの振興センターとのバランスを取りながら改装等を考えていく。
4	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	教育部	文化財課	伊藤家の武家住居の保存・活用について	伊藤家の武家住居の保存・活用について花巻市はどう関わっていくのか、周辺の整備はいつごろになるのか伺いたい。	花巻市での買い上げについて、所有者の方とほぼ合意ができている。まずは壊れないように保存工事をして、今後どのように復元については、文化財審議会の意見を伺いながら文化財として後世に残すためできることをしていきたい。 周辺整備は、取得後できるだけ早く、できる範囲で行いたい。

■平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
5	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	生涯学習部	生涯学習課	文化・美術について	花巻市民の美術文化を購入する美術選奨を復活してほしい。 花巻市が寄贈されたり買い上げた美術品の保管状況を伺いたい。萬鉄五郎記念美術館や花西振興センターの2階に保存してあると思うが、保存状況がいいとは言えない。市の財産である作品の、適切な保存を検討してもらいたい。	合併前の花巻市で、すぐれた作品を市が購入して市民に紹介するという施策があつたようだ。総縁は不明だが、今は実施していない。 絵画等の保管状態は、あまりよい状況ではない。重要な作品等は、高村光太郎記念館など新しい施設に保管することも検討したい。  美術品の保管は大きな問題である。萬鉄五郎記念美術館も、十分な展示・保管スペースがない。新しく建てるとき、数億単位のお金がかかる。総合施設等管理基本計画の基本方針を、市民の声を聞いたうえで、できれば今年度中に作成したい。その後2年かけて、具体的な施設について今後40年間の計画を作ることを考えている。花巻市は記念館等多いため、新たに博物館や美術館、美術品を保管する施設作るのは、相当難しい。保管場所がないのに買い上げるわけにもいかない。
6	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	財務部	財政課	花巻市の財政について	花巻市は「民」にお金を出しすぎではないか。市民は無茶な要求をしても仕方がないので、できることできないことをはっきり言うべきではないか。	必要なものにはお金を出さないようにしている。マルカンの件も、やめるべきだという意見が多ければ、やめざるを得ない。様子を見ながら、身の丈に合った支援を探していく。 借金をしないとやっていけないが、花巻市の財政を考えて、できるだけ市民の負担が少なくなるようにしていただきたい。合併特例債や過疎債などの有利な借金を利用して、やっていくことを十分検討しなくてはいけない。できないこともたくさん出てくると思われる所以、市民の方と一緒に考えていかないといけない。
7	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	健康福祉部	地域医療対策室	総合花巻病院について	総合花巻病院の医師確保について、どのようなことを考えているのか。	医師の確保について、検討中である。東北医科薬科大学が設立されたため、相当数の医師をはじめ医療関係者がこの大学及び附属病院などに必要とされることから、岩手県の医師は今後長期間に亘り不足するとの有力な医療関係者のご意見がある。総合花巻病院は現在も赤字であるため、このまま放置した場合病院自体の存続が問題となる可能性もある。医師の確保については総合花巻病院とともに検討している。
8	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	建設部	都市再生室	誠山房跡地の利用について	誠山房跡地について具体的にわかっていることを教えてほしい。	現在計画段階のため、はっきりお話しできない。岩手県とも、住宅をまちなかに作るということについて話し合いをしている。
9	H28.5.16	市政懇談会 (H28)	花巻中央	建設部	都市政策課	まちなかの空き家について	まちなかの空き家について、どのような対策をしているのか。	現在、空き家対策法に基づく花巻市としての計画案を提出し、パブリックコメントを出して皆さんの意見を聞いている途中である。空き家バンクという制度を作って、空き家を活用してもらっている。県外からの空き家バンクを利用して移住の方に改修費用の補助を出している。空き家対策法は、空家の活用化と危険だったり不衛生な家についての対策となる。
1	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	災害時の対応について	山林の皆伐が進行し、また林家の意欲低下により山林荒廃が進んでいる状況である。また耕作放棄地が増加し水田による保水能力が低下が危惧されており豪雨災害などの災害時の対応について伺いたい。	土砂災害危険箇所は、昨年全戸配布したハザードマップにも掲載しているが、住居が土砂災害危険箇所にある世帯については現在防災ラジオを配布し、市が避難に関する情報を発令した場合にラジオを自動で起動させることにより情報を伝達する。(大迫地域は5.18現在配布対象581世帯中291世帯に配布済)。配布案内の文書が届いたらぜひ申し込んでいただきたい。 また、山林の皆伐により土砂災害が発生し易くなっていることも考えられるため、ハザードマップに表示されていない場所でも危険な場所は地域で確認し、避難に関する情報を発令した場合には土砂災害の事前現象(地鳴り、崖や斜面からの水の湧き出し等)に十分注意し、危険と感じたら速やかに避難を開始するとともに市に連絡いただきたい。 水田の保水能力の低下により周辺の道路が冠水したり、河川の水位が急上昇する場合も考えられることから、大雨の際には十分注意とともに、速やかに市に情報の提供をお願いした。

■ 平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
2	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	活断層について	花巻市域における活断層の分布状況について情報提供をお願いしたい。	花巻市は西側を南北に北上低地西縁断層帯が走っており、昨年全戸配布した花巻市西部のハザードマップに記載している。岩手県が平成7年度から平成9年度にかけてこの断層帯による地震被害想定調査を行った結果、マグニチュード7.8程度の地震が発生する確率は平成13年から300年間はほぼ0%という評価。熊本地震の後、岩手県は断層の再調査を図ったところ「現在再調査の考えはない」とのこと。  活断層は、国の調査においても1/3Lか確認されていない。北上低地精闢断層帯は4600年前に地震があったとのことであり地震の頻度は平均で16,000年から24,000年に一回と情報も確率は低いと考えられる。地震調査研究推進本部も今後300年間の発生確率はほぼ0%としている。しかし、熊本地震は確率が低いとされた中で発生しており油断はできない。大迫に関して言えば、昨年5月に震度5強を観測したことから、土砂災害警戒警報発令時には、防災危機管理課、大迫総合支所とも年間で5~6回待機している。大迫地域は、古い地層帯であることから、花巻の西地域よりも大きな地震の危険は少ないのではないか。
3	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	拠点避難所の設置について	拠点避難所の設置された場合、総合支所の職員も多くない状況において、夜間や休日に迅速な対応が可能であるのか。夜間の対応においては、地理条件や住宅事情への精通が職員に求められるのではないか。	避難に関する情報を発令した場合に避難所を開設する避難所連絡員を夜間、休日ごとに定めている。この避難所連絡員は速やかに避難所を開設できるよう、避難所に近い場所に居住する職員を指定している。  避難所を開設するのは花巻市であるため、原則として市職員が避難所を開設し避難所の運営も職員を派遣して対応することとしている。しかし、避難所を運営する上設備の操作等不明な点があった場合は電話等で問い合わせさせていただきたい。  避難所連絡員は比較的住居が近い者を指定しているためある程度は地理等に明るいと考えている。
4	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	避難行動要支援者名簿について	避難者行動要支援者名簿については、有事の際のみ情報活用できるとのことであるが、活用のイメージはどのようにになっているのか。また、平時は紙ベースで金庫等にて施錠管理保管されるとのことであるが、有事においてどのように活用が想定されるか。	避難行動要支援者名簿は災害時には提供できることとなっているが、不同意者も含まれているため提供する場合には個人情報の取り扱いについて十分な検討が必要。具体的な取り扱い方法はまだ定めていないため、県の助言や他市町村の取り組みを参考に今後しっかりと検討していくなければならない。  自主防災組織が平時に管理する名簿は同意者の名簿であり、この同意者全ての情報を把握することができるには会長もしくは副会長等最小限とし、要支援者個々の情報は直接支援に携わる方のみとするなど、同意者の情報を提供するには最小限にしてほしいと考えている。同意者名簿を提供する場合には取扱い方法を示した上で提供する。名簿の利用は、災害が発生した場合には会長もしくは副会長が要支援者の安否や避難状況の確認に利用することが考えられる。
5	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	避難行動について	町内にいるのは高齢者と子どもが殆どなので、状況に見合った有効な避難行動はどのようなものか意見交換したい	日中はほとんど高齢者となる地域が多いというのは市内ほとんどの地域で共通する課題。このような状況の下、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自助の意識のもと、地域で何ができるか地域の実情を踏まえて考えいかなければならない。行政としても必要な情報は提供するとともに地域と一緒にになって考えていきたい。
6	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	総合政策部	防災危機管理課	市の地震対策における震度想定について	只今説明のあった市の対応は、震度をいくらに想定したものか。熊本地震のように震度7以上となれば、道路は寸断され、さらに停電となる。停電の状況下で市はどのように情報伝達しようと考えているのか。	停電時の対応として、ラジオを備えて欲しい。市においても、土砂崩壊危険区域に居住する方に防災ラジオを無償貸与している。

■平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
7	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	教育部	教育企画課 小中学校課	大迫地域の小学校の統合について①	今後大迫地域は、ますます児童が減少していくと思われるが学校統合について市の考えをお聞きしたい。	少子化の影響で、市内の児童・生徒数は5年後には1,000人ぐらい減ると予想される。大迫地域の3つの小学校の児童数は平成28年度では159人(大迫106人、内川目22人、亀ヶ森31人)であるが、平成34年度には109人(大迫87人、内川目11人、亀ヶ森11人)と50人減ると予想されており、学校規模の適正化を図る必要がある。 将来的な学習環境の整備を踏まえ、各地域に出向き、データを見ながら、じっくり時間をかけて保護者はじめ住民の意見を聞きながら考え方を共有していきたい。 平成27年度に有識者等による保育教育環境検討会議を設置し、会議を3回開催して現状に関する情報共有を進め、学区再編等について意見交換を行った。 また、平成28年度以降は、市の施設の今後の在り方と併せて検討を行うワークショップを開催する予定であり、将来的な児童数の推移、小規模校のメリット、デメリットの検証等の資料を提示しながら、十分な話し合いの機会を設けてまいりたい。 先ずは統合ありきではなく、大迫地域においてはどうあるべきか。中学校や保育所との接続を含め一緒に考え、知恵をいただいていきたい。 統合の問題については、地域の方がお子さんのために何が良いのか考えていただくことが必要であり、そのためワークショップで話し合うことは結構である。この問題は、大迫、内川目、亀ヶ森で話を伺つてもそれ異なるのではないか。出来れば、出席者の方に考えを伺ってみたい。
8	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	教育部	教育企画課 小中学校課	大迫地域の小学校の統合について②	小学校統合には東和の例があるが、メリットとデメリットがあると思う。子どもたちにとって何がベストか考えるべきである。地域の伝統文化の継承等への配慮も必要ではあるが、小人数ではクラブ活動もままならない。	小学校統合事例は、東和のほか前田小と湯口小がある。統合前に出されたメリットとデメリットはおおむねクリアされているのではないか、大迫においても、中学校統合、内川目地区と外川目地区的小学校統合の経験値はある。統合は大人の知恵が試される。学校、PTA、地域社会の構造すべてを変える必要がある。話し合いが重要ではあるが、あまりのんびりもできないと考えている。中学校進学にあたっては、個性を伸ばし、選択肢を増やす取り組みが必要であり、沢山の意見をいただき、それをひとつひとつ検証し、総意を以て最前を尽くしたいと考えている。
9	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	財務部 大迫総合支所	契約管財課大迫 総合所地域振興 課	公共施設の適正な維持について	旧町時代に整備した施設の修繕が行き届いていないと思う。新規整備は望まないまでも利用環境は保持して欲しい。	大迫総合支所が所管している公共施設は60程度で、内川目や外川目に小学校統合対策として整備した集会施設が築後30年以上が経過している。管理運営については、直営管理のほか、振興センターや近隣施設を指定管理することにより利用者の利便向上に努めている。建設後相当の年数を経過している施設も多く、毎年修繕需要が発生しているところであり、修繕計画を策定の上、年次的に対応しておりますが追いつかない部分もあるが、カントリーラザについて古いテント部分は撤去し、本年度において再整備を行っている。  国より公共施設等総合管理計画策定の要請を受けているが、国のガイドラインに基づき、建設後30年を経過した時点で大規模修繕、60年経過した時点で建替えする設定で試算した場合、今後40年間で3,710億円かかるとの結果である。これは単年度90億円が必要となり、現在の市関係予算は60億円と比較した場合、30億円不足することとなる。原則的に、新しい施設を建てなくとも、施設を今までのとおり維持することは難しく、市全体として考えていく必要がある。先ずは、基本方針を作ることとしている。他市より遅れるかもしれないができるだけ早く作りたい。施設個々に記述することはできないが、みなさんの意見を聴いて、我慢していただく述べるところは我慢していただく。但し、今後数年にわたり使用していく施設は、予算の範囲内で修繕していく。

■ 平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
10	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	生涯学習部 大迫総合支所	スポーツ振興課 大迫総合支所地域振興課	大迫地域の公共施設について	中学校野球部の保護者である。大迫野球場は楽天イーグルスの称号を受けており、花巻球場とともに硬式野球ができる市内唯一の球場で、大学野球のリーグ戦や花巻東高校の練習試合も行われている。初めて訪れる人は期待してやって来るが施設の現状を見てがっかりしていく。観覧席がボロボロで建物内部は雨漏りが発生し、スコアボードも電球が虫食い状態である。大迫地域には、軟式野球の社会人チームの県下No.1もあることから適切な修繕をお願いしたい。また、中学校野球部の練習会場として使用している亀ヶ森地区農業者トレーニングセンターは、雨漏りがひどく、使用できない日や使用範囲が制限されるなどしている。地元の亀ヶ森地区の人はもっと困っていると思う。避難所に指定されていることからも完全な修繕をお願いしたい。	数千万、億単位の修繕対応は無理である。数十万、数百万円であれば予算の範囲内対応を検討するが調査が必要である。大迫地域には、中学校改築や給食センター等で本年度20数億円が投じられ、市民ひとりあたりに換算すれば多くなっている。大迫野球場の観客席等のコンクリートが経年劣化していることは承知している。昨年度は階段部のコンクリート及び雨漏りの原因とみられる亀裂の補修を行ったが、全面補修には至っていない。今後も予算の範囲内で補修を行っていく予定である。
11	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	財務部	契約管財課	公共施設等総合管理計画について	施設を現状のまま維持することは不可能と思う。施設をまとめることも含め検討が必要ではないか。行政としても、住民が必要としている施設をきっちり造っていただく。公共施設を民間に使用されることも含め検討が必要である。	公共施設等総合管理計画の基本方針策定を通じ、市の職員はもっと考える必要がある。
12	H28.5.23	市政懇談会 (H28)	大迫	大迫総合支所	大迫総合支所地域振興課	大迫交流活性化センターの閉館時間について	大迫交流活性化センターの使用時間は、パンフレットによれば午後9時半までとなっているが、実際は午後9時を過ぎると終了を促される状況にあるので、時間一杯使用できるようにして欲しい。	指定管理者と協議の上対応していく。ただ、実際に管理している方が遅い時間まで対応可能であるかも考える必要がある。
1	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	総合政策部 農林部 建設部	総務課 農村林務課 道路課	行政区境の諸課題の解決について	地域境には、草刈代や道路整備などの課題がある。市も地域境の問題に思いを寄せ、隣接の市町との連携を図ってほしい。 境界線近くに2軒の住家がある。境界線変更を考えてほしい。トップ同士の共通認識を持ってほしい。	今年度、道路整備事業は進むと思われる。北上市境の道路は、北上市の予算も厳しいとのことだが、要望等の情報交換、行政間の連携に努めたい。  北上市長に話をしたときは否定的であったが、まずは状況を整理して話をしたい。岩手県市町村課に話をして考え方を聞いたうえで、考えていきたい。
2	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	総合政策部 農林部 建設部	防災危機管理課 農村林務課 道路課	宇南川の整備と市道の整備について	宇南川の源泉である田沢堤の直下に活断層がある。震度5強では決壊の恐れありとしているが、この状況をどう認識しているか。 市道の整備をお願いしたい。農地水事業で市道舗装整備の手続きを伺いたい。	【防災】おととし9月に、横志田、柄内、中笹間、北笹間の4行政区を対象に、田沢ため池が決壊した場合についての説明会を開催し、ハザードマップを全世帯に配布した。震度5強以上の地震が発生した場合は「避難勧告」を発令し、現場を確認し異常が見られた場合は「避難指示」を発令する。情報伝達については、防災ラジオ、エリアメールなど、あらゆる手段でお知らせをする。田沢ため池は岩手県指定の防災重点ため池になっているため、今後耐震診断調査を検討しているとのこと。  【道路】宇南川の維持管理について、地域の方々にお札を申し上げる。支障木の繁茂状況を見ながら、地元と打ち合わせをして伐採を進めていきたい。  【農村】農地水事業は平成26年に多面的機能支払交付金制度に事業名が変わった。東北農政局および岩手県から、市道の整備は事業対象外のため多面的機能支払交付金での整備はできない旨平成27年に指導があった。ご理解をいただきたい。
3	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	農林部	農政課	農地中間管理機構について	農地中間管理機構の現状と今後の見通しについて伺いたい。条件の不利な土地が農地中間管理機構に集まつた場合の、花巻市の対応について伺いたい。	農地中間管理事業の県実績の約半分が、花巻市の農地集積となっている。今後は集積だけではなく集約化も進めたい。中山間地域の条件不利地については、花巻市からの支援を別途設けた。地域内で農地をどのような形で担い手にお願いしていくか、地域全体で話し合いを続けてほしい。  花巻市の農地中間管理事業の活用実績は、うまくいっている県の県全体並みの成果を上げている。東北市長会として、農業について10項目ほど国に要望を出した。花巻市としても言い続けるので、皆さんも言い続けてほしい。

■平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
4	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	商工観光部 健康福祉部	商工労政課 長寿福祉課	買い物弱者対策について	笹間地区には、Aコーブもなくなりコンビニもない。Aコーブの移動販売車は週4回ほど各地区を回っていただいているが、十分ではない。ますます高齢化が進んでいくなか、花巻市で考えている施策があれば伺いたい。	花巻市では、高齢者や介護が必要とされる人に対する支援はあるが、使用できる人が限られている。民間で有償サービスを行っているところもあるので、情報提供をしていきたい。地域の実情を聞いて現実的な支援を考えていきたい。  道の駅構想の中で、生産直売所やコンビニを引っ張ってきてほしいという話があるのは聞いている。皆さんからどんどん意見や希望を出していただいて、弱者を救済する方法を考えてほしい。民間の移動販売車事業者に要望していくのはあってもいい。
5	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	総合政策部	地域づくり課	振興センターでの各種証明書の発行について	今年度から振興センターでの各種証明書が発行されなくなった。コンビニで発行できるという説明は受けたが、笹間にはコンビニがない。利用率は高くなかったのかもしれないが、振興センターで証明書を発行しなくなったことについてどう考えているのか伺いたい。	平成28年4月より、コンビニで証明書が取れるようになったので、振興センターでの証明書発行を終了した。マイナンバーカードの普及に伴い、住民票等の証明書添付も不要になってくる。どうしても証明書が必要な方には、市役所まで行く交通手段がない人のために証明書の宅配サービスを行っている。マイナンバーカードの普及も含め、さらにPRして進めたい。
6	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	総合政策部 教育部	秘書政策課 教育企画課 こども課	少子化社会の対策について	笹間地区は、60年間で4割人口が減少している。この現象の大きな要因は少子化であるが、少子化をどのようにとらえているか。 笹間地区には、幼稚園、保育園、小学校が2つあるが、このような少子化の状況で教育環境をどのように考えているか。	現在の花巻市の人口は、10万人を切った。昨年の10月に人口減少対策として「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定し、少子化対策に取り組んでいる。人口減少の要因は、特に少子化の進行によるものが大きい。若い方が花巻から出でいかないように、また、出て行った方が花巻に帰ってくるよう雇用の充実を図るとともに、子育ての環境を作ることを重点戦略として盛り込んでいる。  昨年4月より「子ども・子育て支援新制度」が始まるのに伴い、花巻市でも少子化を見据え、花巻市子ども・子育て支援事業計画『イーハトーブ花巻子育て応援プラン』を策定した。平成31年度までに認定こども園を3か所を設置することを目標としている。平成28年4月に1か所、平成29年度の設置に向けて1法人が準備を進めている。認定こども園への移行を働きかけていく。ただ、保育園を認定こども園にすることは方向が逆であり、希望する幼稚園を認定こども園とすることを考える必要がある。花巻市内の児童生徒数も減少している。5年後には1,000人減少すると見込んでいる。昨年度、有識者による「保育教育環境検討会議」を設置し、現状に関する情報共有を進め、学区の再編成等について意見交換を行っている。市民の皆さんとも十分話し合いをして、より良い方向を定めていきたい。
7	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	生涯学習部	生涯学習課	H29年度以降の生涯学習施策について	H29年度以降は生涯学習事業に予算がつかないと聞いた。今年度と同じ予算措置をしてほしい。	振興センターでの生涯学習事業は地域づくりを目的とする意味合いが強く、地域内行事とも重なっている部分がある。より事業の自由度を高める意味でも、地域が主体となって実施をしたほうが効果的であることから、今年度からコミュニティ主体となって実施をしてもらいたい。平成28年度は、事業が円滑に進むように担当職員がコミュニティに入つて支援を行い、研修などの取り組みも行っている。職員による支援は続けるが、地域での自主的な運営をしていただきたい。生涯学習は、地域づくり交付金の中で事業実施をお願いしたい。

■平成28年度市政懇談会記録

「内容」「懇談会での回答」は、読みやすくするため、正確さを損なわない範囲で、部分的に文章上の整理を行っています。

番号	年月日	種別	地区名	担当部	担当課	参加者発言趣旨 (タイトル)	内容(要旨)	懇談会での回答(現状・取り組み状況等)
8	H28.5.26	市政懇談会 (H28)	笹間	教育部	こども課	保育園の待機児童数と無料化について	花巻市での待機児童数を教えてほしい。少子化対策をするのであれば、保育園を無料化してはどうか。できれば小学校の無料化まであればいいのではないか。	花巻市の待機児童は、4/1現在で29名。  保育園の入所要件が緩和されたため、予想以上に待機児童数が増えた。公立保育園は定員をオーバーして受け入れをしているが、保育士の確保が難しく十分に増やせないでいる。公立保育園では、4月から期限付ではあるが正規の保育士を採用し、人材の確保に努めている。小規模認可保育園を増やし、総合花巻病院が移転するときには、認可保育園を作つてもらうことを計画している。花巻地区については定数が足りないので、少し増やしていきたい。  保育園は第3子は半額補助だが、第3子の要件を緩和し支援している。保育園の無料化は、高齢者にかかるお金を減らして無償化するなら可能だが、そういうわけにはいかない。医療費の無償化などいろいろやっている。保育園の無料化はやれるとしても相当先で、なかなか難しい。